

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要	建物名称	(仮称)新米町ビル	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
--------	------	-----------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度				
重点項目		得点※/満点	取組み度	評価
1	循環型社会への貢献	3.4 /5		ふつう 
2	地球温暖化対策の推進	3.7 /5		ふつう 
3	豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう: 
4	高齢社会への対応	1.0 /5		がんばろう: 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	
			よい 4 点以上	
			ふつう 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア	使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016v.2.1
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.4	
リサイクルに関する配慮	スコア 3.4	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減		Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数
		Q2/ 3 対応性・更新性
・リサイクル材の活用・LGS下地、OAフロアの採用		床:ビニルシート20年、壁:EP65年、天井:GB-R30年
		・給排水管は上位3種がB以上、Eは不使用
		・階高3.9m以上
		・壁長さ比率0.20
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.7	
省エネ・省資源に関する配慮	スコア 3.4	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮		LR2/ 1.1 節水
・LCCO2排出率=89%		・自動水栓に加え、節水型便器の採用
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.0	
生態系保全に関する配慮	スコア 2	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出		Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善
4 高齢社会への対応	スコア平均 1.0	主な指標
バリアフリーに関する配慮	スコア 1	建物の外皮性能 (BPI評価)
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級
		建物的一次エネルギー消費量 (BEI評価)
		非住宅:BEI値、住宅: -
		外構緑化指数
		建物緑化指数

: 入力欄

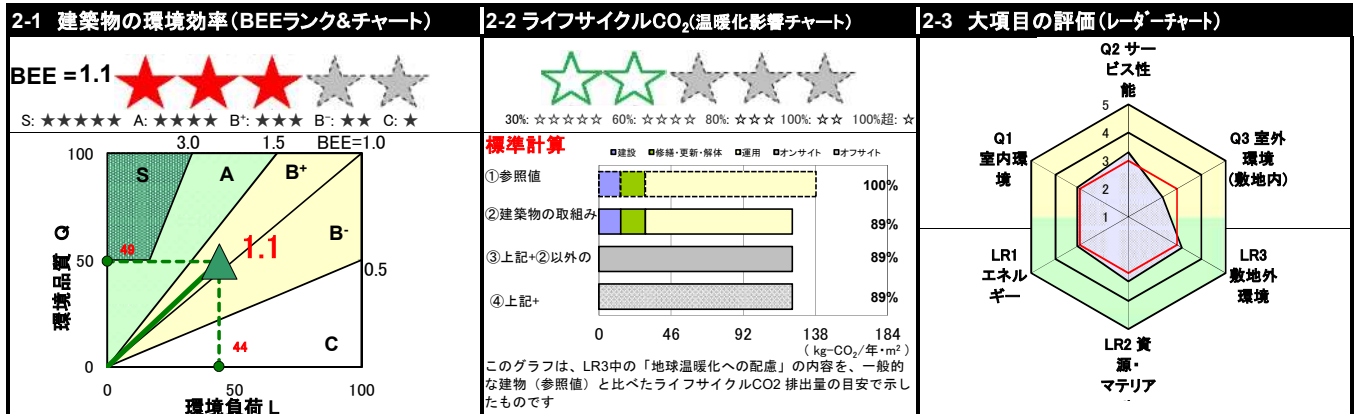
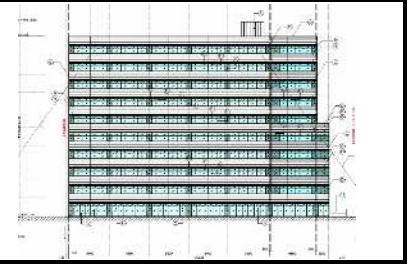
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

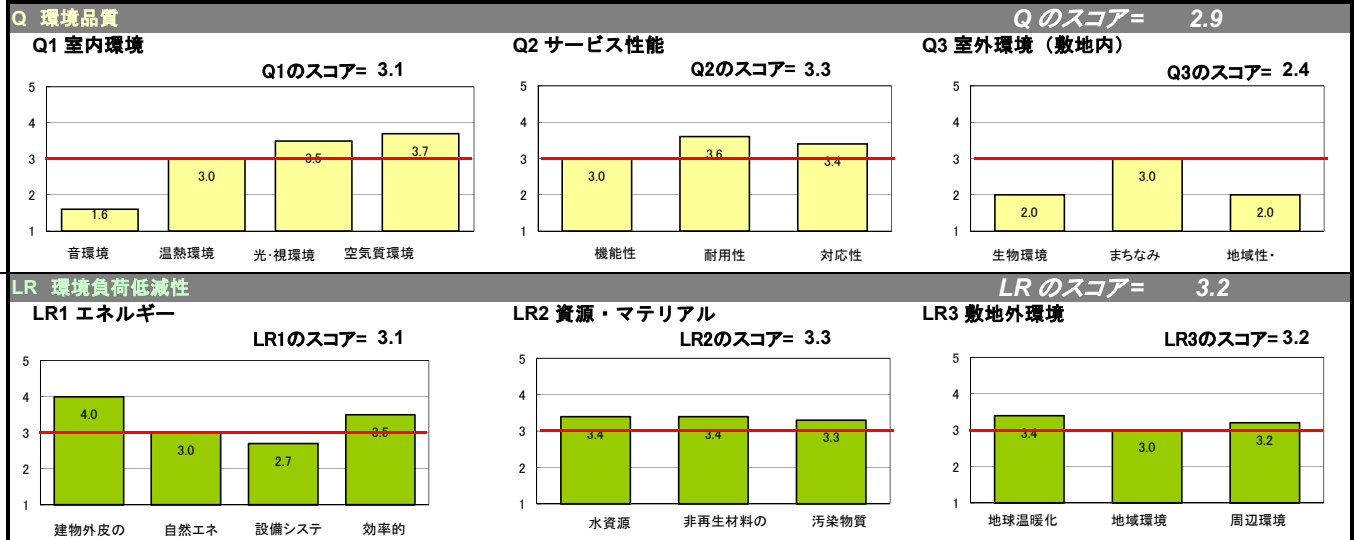
評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新米町ビル	階数	地上10F
建設地	北九州市小倉北区米町2丁目133-2,140-2	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年8月21日
敷地面積	2,725 m ²	作成者	伊藤裕也
建築面積	1,242 m ²	確認日	2018年8月22日
延床面積	11,609 m ²	確認者	山元徹也



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
・室内環境、サービス性能への配慮を行う。 ・敷地内外環境への配慮を行う。 ・エネルギー性能並びに、資源マテリアルの確保に努めている。		
Q1 室内環境 ・あかり+人感センサーによる照明制御が可能 ・内装材料はF☆☆☆☆を使用し、空気質環境に配慮 ・中央管理方式 換気量の35m³/h以上	Q2 サービス性能 ・光回線設置・テナント天井高、広さ感に配慮・防汚性の高い建材を採用 ・耐震性への配慮・耐用年数の長い部品、部材を採用 ・設備機器の信頼性は高い・階高、壁長さ比率を確保し、	Q3 室外環境 (敷地内) ・高木を設置
LR1 エネルギー ・建物の熱負荷抑制に配慮している。 ・LED照明等の高効率設備を採用している。 ・WHメーターにより管理	LR2 資源・マテリアル ・自動水栓に加え、節水型便器の採用 ・リサイクル材を活用 ・LGS下地、OAフロアの採用 ・水性プライマーを採用	LR3 敷地外環境 ・省エネ性能に配慮し、LCCO₂排出率を89%としている ・ガス設備設置無し等、大気汚染防止に努めている ・光害の抑制に努めている

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)新米町ビル

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.9	
Q1 室内環境					0.40		-	3.1	
1 音環境				1.6	0.15	-	-	1.6	
1.1 室内騒音レベル				1.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				1.7	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				1.0	0.63	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.37	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.5	0.25	-	-	3.5	
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-		
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.28	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御		あかり+人感センサーで制御		5.0	0.27	-	-		
4 空気質環境				3.7	0.25	-	-	3.7	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		内装材料はF☆☆☆☆を使用する		4.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.6	0.30	-	-		
1 換気量		中央管理方式 換気量の35m ³ /h人以上		5.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3	
1 機能性				3.0	0.40	-	-	3.0	
1.1 機能性・使いやすさ				2.8	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.31	-	-		
2 高度情報通信設備対応		光回線引込		5.0	0.31	-	-		
3 バリアフリー計画				1.0	0.38	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		テナント天井高2.7m、窓設置		4.0	0.31	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.31	-	-		
3 内装計画				3.0	0.38	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材の採用		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.6	0.30	-	-	3.6	
2.1 耐震・免震・制震・制振				4.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		防振架台、防振ゴム		4.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニルシート20年、壁:EP65年、天井:GB-R30年		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種がB以上、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電設備・無停電電源設備、地下空間の設置を避けている		4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.5	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高3.9m以上	5.0	0.56	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率集会所用途:0.196、事務所用途:0.20	4.0	0.44	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		高性能断熱材、複層ガラス	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			2.7	0.50	-	-	2.7
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		WHメーターにより管理	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓に加え、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン(路盤材)、ビニルシート(床材)	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS下地、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		水性プライマーを採用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=89%	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		ガス設備工事無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの過半を満たす、広告物照明の採用無し	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	